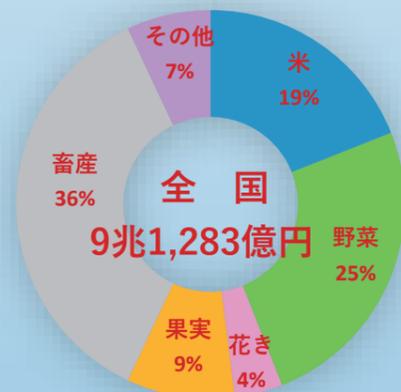
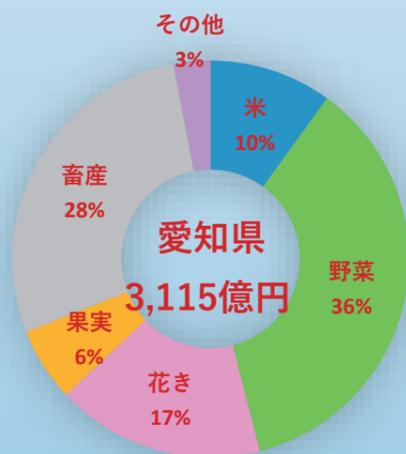
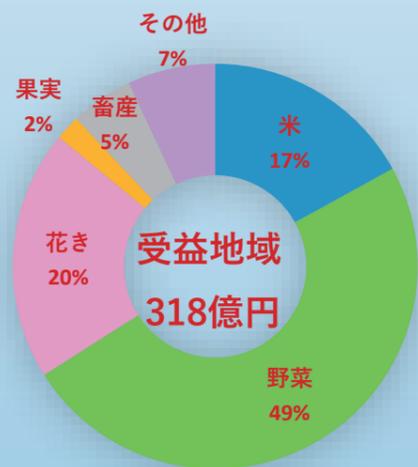


【受益地域の農業】

(1) 農業産出額と作物別構成比 (2018)



※受益地域：津島市、稲沢市、愛西市、
弥富市、蟹江町、飛島村

※資料：生産農業所得統計(農林水産省HP)

(2) 木曾川用水(濃尾第二)に係る沿革

- ・明治33年 佐屋川用水の完成(海部幹線水路の前身)
- ・昭和30年 愛知県海部農地開発事務所の設置
- ・昭和37年 水資源開発公団の設立
- ・昭和39年 農林省が木曾川用水事業に着手
- ・昭和43年 海部土地改良区の設立
- ・昭和44年 水資源開発公団が農林省から事業を承継
- ・昭和50年 木曾川大堰の完成
- ・昭和52年 暫定通水の開始
- ・昭和55年 木曾川開発連絡協議会の設置
- ・昭和58年 建設事業の完了
木曾川用水総合管理所の設置
- ・平成8年 水資源開発公団営緊急改築事業の着手
(平成14年完了)
- ・平成8年 県営地盤沈下対策事業木曾川用水地区
の着手(令和4年完了)
- ・平成9年 木曾川用水通水20周年 記念式典
- ・平成15年 水資源開発公団から(独)水資源機構へ移行
- ・令和4年 (独)水資源機構営及び県営 改築事業の着手



独立行政法人 水資源機構
木曾川用水総合管理所

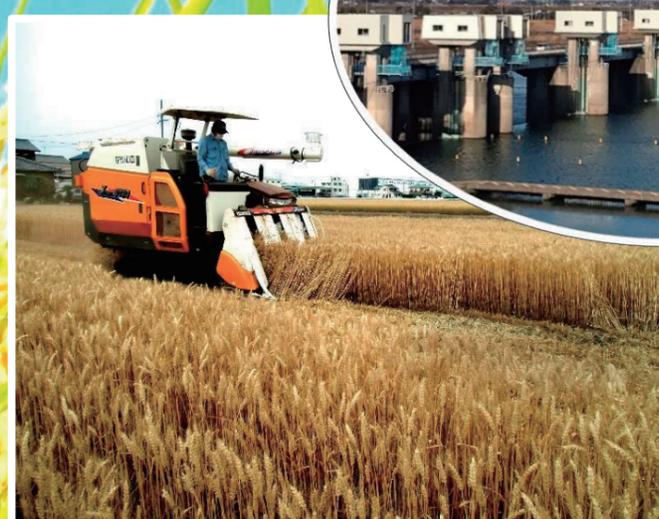


愛知県
海部農林水産事務所



木曾川用水

— New Project Starts 2022 —



(独)水資源機構営 木曾川用水濃尾第二施設改築事業

県営 地盤沈下対策事業 木曾川用水2期地区

【事業の説明】



木曾川、長良川から取水していた85か所の農業用取水口（愛知県・三重県）を木曾川大堰1か所にまとめて、安定的な農業用水の取水が可能になったんだね。

目的

木曾川用水事業で建設した濃尾第二施設の通水開始から40年以上が経過し、長年に亘る地盤地下や経年劣化により、支線水路流下能力の低下、揚水機場配管の変位、建屋の劣化、ポンプ・受変電設備の突発的な故障、吸水槽側壁の余裕高の不足など、施設の機能低下が顕在化しています。また、支線水路の一部には石綿セメント管が使用されており、地震等で破損した場合には、石綿（アスベスト）の飛散による農業者等への健康被害が懸念され、早急に対策を講じる必要があります。

このため、(独)水資源機構と愛知県は一体的に施設の改修を行い、引き続き農業用水を安定的に供給することで、農業生産性の維持・向上及び農業経営の安定化を図ります。

概要



区分	(独)水資源機構営 木曾川用水濃尾第二施設改築事業	県営 地盤沈下対策事業 木曾川用水2期地区
(1) 地域	愛西市、弥富市、蟹江町、飛鳥村	津島市、愛西市、弥富市、蟹江町
(2) 受益面積	3,018ha	1,097ha
(3) 事業量	・支線水路 64km ・揚水機場 22箇所	・支線水路 13km ・揚水機場 12箇所
(4) 総事業費	350億円（予定）	190億円（予定）
(5) 負担区分	国55%、県40%、市町村5%、農家なし	
(6) 工期	令和4年度～令和18年度（予定）	

概要図



県内位置図



施設の現状



老朽化した揚水機場 機場内の地盤沈下状況



ファームボンドの摩耗 石綿セメント管の破損

整備内容（先行事例）



機場の建替及び補修 ファームボンドの補修



電気設備の更新



ポンプ設備の更新



支線水路の更新



石綿セメント管の除去 ※

※法令等に基づき、撤去時等における作業員の保護や石綿粉じんの飛散防止を適切に行います。

～メモ（受益地域の主な農産物）～

お米 小麦 大豆 れんこん だいこん レタス みつば トマト イチゴ 観葉植物(鉢)

